第2節　社　　会

第１　本指導実践事例集の活用について

１　作成の基本的な考え方

⑴　本資料は、小学校学習指導要領及び同解説社会編、埼玉県小学校教育課程編成要領・同指導資料・同評価資料の趣旨に基づいて作成したものである。各小学校において、社会科の学習指導を行う際、単元全体の展開（指導計画と評価計画）をどのように考え、実際にどのように学習指導を行っていくのか、その参考となる具体的な実践事例を示した。その際、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと、思考力・判断力・表現力等を育むために言語活動の充実を図ること、伝統や文化を大切にしようとする態度を育てること、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習の一層の充実を図ることなどを重視した。

⑵　小学校学習指導要領の社会の目標は、「社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。そこで本資料の実践事例では、この目標を実現するため、教材の開発や地域人材・施設の活用、個に応じた指導、評価の工夫・改善などの内容を一層充実させるとともに、単元の指導計画と評価計画において学習問題とその結論、主な学習活動とその学習内容を具体的に示し、社会科の基礎・基本の確実な定着と社会的な見方や考え方を養えるようにした。

２　取り上げた内容

（※単元名及び小単元名は、「埼玉県小学校教育課程編成要領」による）

事例	学　年	単元名　「小単元名」	○主たるテーマ　　・その他のテーマ
1	第４学年	健康なくらし 「水の確保と人々の協力」	○よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと ・法やきまり、節水などの内容の取り扱い
2	第４学年	地域の先人の働き 「秩父鉄道と柿原万蔵」	○思考力・判断力・表現力等を育むために、言語活動の充実を図ること ・道徳教育との関連
3	第５学年	わたしたちの国土 「自然条件と人々のくらし」	○知識・技能、社会的な見方や考え方の活用を図ること ・情報ネットワーク・図書の活用
4	第５学年	工業生産とわたしたちの生活 「自動車工業のさかんな豊田市」	○作業的、体験的な学習の一層の充実を図ること ・環境教育の充実
5	第６学年	日本の歴史 「新しい日本の出発」	○文化遺産を通して我が国の歴史の学習を深めること ・情報教育の充実
6	第６学年	世界の中の日本 「国際社会における我が国の役割と世界平和」	○問題解決的な学習の一層の充実を図ること ・小・中連携の重視

３　活用に当たっての配慮事項

⑴　各学校では、本実践事例を参考にし、社会科の年間指導計画や単元ごとの指導計画と評価計画を見直し、計画的・組織的に指導に当たることが必要である。特に次の点に配慮する。

○　地域や学校の実態及び児童の発達の段階や特性を十分考慮し、それを生かした授業を構成する。

○　学習問題をつかみ、調べたり考えたりすることで結論を導き出すような問題解決的な学習を一層充実させる。

○　見学や調査など家庭や地域との連携を深めた学習を計画的に行う。

○　学習評価の工夫改善を図り、児童の指導に生かす効果的で効率的な評価を行う。

⑵　各実践事例の主たるテーマやその他のテーマ、指導方法の工夫などを、他の単元の学習指導をする際にも応用させるなど、創意工夫が求められる。その際には、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料及び同評価資料並びに国立教育政策研究所作成の「評価規準の作成のための参考資料」などを併せて活用されたい。

第２　実践事例

事例１　**よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと**

学習指導要領の改訂を受け、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと」を一層重視するようになった。このよりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎とは、主体性をもって社会に積極的に参画して、課題を解決していくことのできる力のことである。この資質や能力を「埼玉県小学校教育課程指導資料」では、次の３点としている。①自分から「社会に関心をもち、関わろうとする意欲」、②現在の「社会の仕組みや営みと個との関わりについての理解」、③未来に向けて「望ましい解決策や政策等を選択、吟味、立案、提言等ができる技能」である。これら３点を重点とし、飲料水の確保に関する対策や事業と自分たちとの関わりを追究させ、自分ができることを考える活動を組み入れ、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培っていく。

１　単元名　第４学年⑶アイ　健康なくらし　「水の確保と人々の協力」

２　小単元について

本小単元は、飲料水の確保と自分たちの生活や産業との関わりや、飲料水に関する対策や事業が計画的、協力的に進められていることなどを理解し、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えることがねらいである。

実生活において、飲料水の確保に関する対策や事業などについて意識している児童は少ない。そこで、本実践では問題解決的な学習過程を２回繰り返すことで、問題への理解を深め、水と自分との関わりについて児童一人一人の意識を高めようと考えた。１回目の問題解決的な学習過程では、飲料水の確保に関する対策や事業について追究する。そして、２回目の問題解決的な学習過程では、水の大切さや節水の必要性など、今後の水利用について考え、社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培っていく。

３　小単元の目標と評価規準

自分たちの生活に必要な飲料水について、見学、聞き取り調査、文献資料などを活用して調べて、飲料水の確保や自分たちの生活や産業との関わりと飲料水に関する対策や事業が計画的、協力的に進められていることが分かり、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることや節水などの今後の水利用ついて考えるようにする。

テーマにせまる指導のポイント

①　社会に関心をもち、関わろうとする意欲
社会的事象に対する関心・意欲を高めるための指導の工夫として、問題解決的な学習過程を２回繰り返す。１回目の学習過程では、飲料水に関わる人々の工夫や努力について結論を導き出す。２回目の学習過程では、その結論を基に、新たな学習問題を自分のこととしてとらえさせる指導の工夫をする。

②　社会の仕組みや営みと個との関わりについての理解
社会的事象と自分や自分たちとの関わりに対する理解を図るため、関係図を作成する学習活動を組み入れる。関係図には、社会的事象に関わる「人・もの・こと」を書き入れさせることで、事象の仕組みと自分や自分たちとの関わりについて理解を深めさせる指導の工夫をする。

③　望ましい解決策や政策等を選択、吟味、立案、提言等ができる技能
「生かす」過程において、自分たちにできることを考え、友達と意見の交流などを通し、様々な考え方に触れる。そこで一人一人の努力や工夫の大切さに気付き、ポスターを作成し、周りに呼びかけていくなど、学習活動を工夫する。

社会的事象への関心･意欲･態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象の知識・理解
生活に必要な飲料水について関心をもち、それらを主体的に調べ、飲料水の無駄な使い方を見直し、大切に使うために自分ができることについて考えようとする。	飲料水が届けられる様子から学習問題をつかみ、飲料水に関わる対策や事業は地域の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることや、節水など今後の水利用について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	飲料水の確保やこれらの対策や事業は計画的、協力的に進められていることについて見学、聞き取り調査、文献資料などを活用して調べ、ノートや関係図にまとめている。	飲料水の確保や自分たちの生活や産業との関わりと、これらの対策や事業が計画的、協力的に進められていることについて理解している。

４　指導計画と評価計画（11時間扱い）

○内の数字は時間を表す。　**関**：社会的事象への関心・意欲・態度　**思**：社会的な思考・判断・表現
〈　〉は評価の方法を表す。　**技**：観察・資料活用の技能　**知**：社会的事象についての知識・理解

	学　習　活　動　・　学　習　内　容	学習活動に即した評価規準　〈　〉評価方法
つかむ	①　普段の生活のどんな場所で水を使っているかを振り返り、絵や文に表し、発表し合う。 ・水と生活との関わり	**関**　生活の中から、水の利用場面を再発見し、絵や文章を用いてワークシートに表現しようとする。〈行動・ワークシート〉
	②　蛇口から先はどうなっているか予想し、学習問題をつかむ。 ・学校の蛇口まで水が届けられる仕組み ・学習問題をつかむこと	**思**　飲料水に関する学習問題をつかみ、ワークシートに表現している。〈発言・ワークシート〉
	学習問題 わたしたちが毎日使っている安全・安心な水は、どのようにして送られてくるのだろう。	
調べる	③　学校で使っている水はどこから送られてくるのか、蛇口までの水の流れをたどり、ワークシートにまとめる。 ・学校までどのように水が流れてくるかを予想すること ・浄水場から学校までの水の流れ	**知**　川の水をきれいにする仕組みや、飲料水がいつでも使えるように必要な量が確保されていることなどを理解している。〈学習カード･ワークシート〉
	④⑤　飲料水をつくるための仕組みや工夫について浄水場での見学・調査を行い、見学カードにまとめる。	**技**　浄水場の仕組みやそこで働く人たちの工夫や努力について調査や聞き取りなど活用して

調べる	・川の水をきれいにする仕組み ・働く人の工夫や努力	調べ、見学カードにまとめている。 〈学習カード・見学カード〉 **知**　川の水をきれいにする仕組み、働く人の工夫や努力などを理解している。〈見学カード〉
	⑥　安全な水の供給の仕組みや工夫や努力について、役場の方への聞き取り調査を通して調べ、ワークシートにまとめる。 ・水道水の安定供給のための仕組みと工夫 ・他地域との協力や、そこで働く人の工夫や努力 **法やきまりに関わる内容**	**技**　飲料水が送られてくる仕組みや働く人たちの工夫や努力について聞き取り調査を活用して調べ、ワークシートにまとめている。 〈学習カード・ワークシート〉 **知**　飲料水に関する対策や事業が計画的に、広く他地域の人々の協力を得ながら進められていることを理解している。　〈ワークシート〉
	⑦⑧　浄水場から水源まで水がどのように送られてくるのか、水資源の確保の様子について、写真や文献資料を活用して調べる。 ・ダムの役割と水資源の確保やダムの建設と森林確保 ・建設により人々の生活が変化したこと ・関係図に、飲料水が届けられるまでの様子をまとめること **テーマにせまる指導のポイント②**	**技**　浄水場から水源までの河川の様子、水源での水資源の確保の様子について資料を活用して調べまとめている。〈関係図・学習カード〉 **知**　水資源の確保がなされ、いつでも使えるように多くの人々の努力や協力があることを理解している。　〈関係図・学習カード〉
生かす	⑨　調べたことを基に、学習問題について話し合い、結論を導き出し、新たな学習問題をつかむ。**（本時９／11）** **テーマにせまる指導のポイント①** ・学習問題について話し合い、結論を導き出すこと	**思**　調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を導き出し、新たな学習問題をつかみ、そのための解決方法を見通している。 〈ノート・学習カード〉
	学習問題の結論 わたしたちが使っている飲料水は、 ・ダムやじょう水場、役場で働く人（他の市や県の人など）たくさんの人たちの工夫や努力、協力によって安全な飲料水になって届いています。その水はいつでも必要な量を使うことができます。 ・山から流れてきた水がダムでたくわえられます。そして、自分たちのもとへ届きます。ダムの水がなくならないようにそのダムのまわりの水源林を守る人たちの協力や努力も必要です。	
	・地域の人口の推移と水道使用量の推移のグラフの読み取りを通し、新たな学習問題をつかむこと	新たな学習問題 わたしたちは、これからどのように水を使っていけばよいのだろう。
	⑩⑪　地域の一員として、どのように飲料水を使っていったらよいのか考え、「４年１組水サミット」を開く。 **テーマにせまる指導のポイント③** ・色々な立場で話し合いを行い、これからの水利用について自分の考えをもつようにすること ・自分の考えを表す際に、必ず根拠や理由を明確にさせること ・自分たちの考えた水利用（節水、大切に使う、もう一度使う）についてポスターに表し、周りに呼びかけること	**関**　自分ができることを実践していこうとする意欲をもっている。　〈態度・ワークシート〉 **思**　日常生活の中で、飲料水の確保と自分の関わりについて考え、表現している。 〈発言・ワークシート〉
	新たな学習問題の結論 わたしたちは、これから水のむだづかいをしないなど節水して水を大切に使うことが必要です。一人一人ができることをしていくことと、社会みんなで協力して水を大切に使うことや、環境を守ることが大切です。	

５　本時の学習指導（９／11時）

⑴　目　標

調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を導き出し、新たな学習問題をつかみ、その解決方法を見通す。

（社会的な思考・判断・表現）

⑵　展　開　（「評価と指導の工夫」の評、→は、評価場面・評価規準・指導を表す。）

学習活動	学習内容	評価と指導の工夫	資料・準備	時間
１　本時のめあてを確認する。	これまで調べてきたことをもとに、学習問題の結論をみちびき出そう。			5'
２　個人でまとめた関係図を基に小グループで話し合い、学習問題の結論を導き出す。 	○前時に作成した関係図を生かし、学習問題の結論を表すこと ○グループの結論を発表すること	○本時は、学習問題の結論を導き出す時間であることを確認する。 ○前時までの授業で用いた掲示資料など示し、振り返りやまとめる参考になるようにする。 ○三つの立場（「自分」「飲料水にかかわる仕事に携わる人」「ダムを作るのに土地をさらなければならなかった人」）を明確にしながら、学習問題の結論について話し合いを行わせる。	・前時までの授業で用いた資料 ・電子黒板 ・前時に作成した関係図	10'
３　学級全体で話し合い、学習問題の結論を導き出す。	○学級で結論について話し合うこと	○話し合いの中で、新たな発見や気付きは赤鉛筆で書き加えていくように助言する。		10'
学習問題の結論 わたしたちが使っている飲料水は、 ・ダムやじょう水場、役場で働く人（他の市や県の人など）をはじめたくさんの人たちの工夫や努力、協力によって安全な飲料水になって届いています。その水はいつでも必要な量を使うことができます。 ・山から流れてきた水がダムでたくわえられます。そして、自分たちのもとへ届きます。ダムの水がなくならないようにそのダムのまわりの水源林を守る人たちの協力や努力も必要です。				
４　地域の水道使用量と人口	○人口の推移と水道	○水の使用量の推移や、今後の使用量はどのよう	・水道使用量と人口	10'

の変化のグラフを読み取る。	使用量の推移 ○今後の予想	に変わるかについて、自分の生活を振り返らせるなど、考える視点を明確にする。	の移り変わりのグラフ	
グラフを読み取った児童の反応 ・このまま水を使うと水が足りなくなるかもしれません。水を大切に使うことを考えることが必要だと思います。				
5　学習問題の結論を基に、新たな学習問題をつかみ、解決の見通しをもつ。 **新たな学習問題** わたしたちは、これからどのように水を使っていけばよいのだろう。	○学習問題の結論と水道使用量の予想、日常の水の使い方について話し合い、これからの水の利用について考え学習問題をつかむこと	評　調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を導き出し、新たな学習問題をつかみ、そのための解決方法を見通している。　【思】　〈ノート・学習カード〉 →解決の見通しのもてた児童には、見通した自分の考えに対して、理由や根拠を考えられるようにする。 →解決の見通しのもてない児童には、どのようなことをすれば今後の水利用はよくなるか、具体例をあげ、誰がどうするかなど考えられるよう個別に助言をする。 ○「誰が、どのようなことをするか」「なぜ、必要があるのか」など具体的な予想をたてさせ、解決の見通しをもたせる。		10'

6　実践の工夫と考察

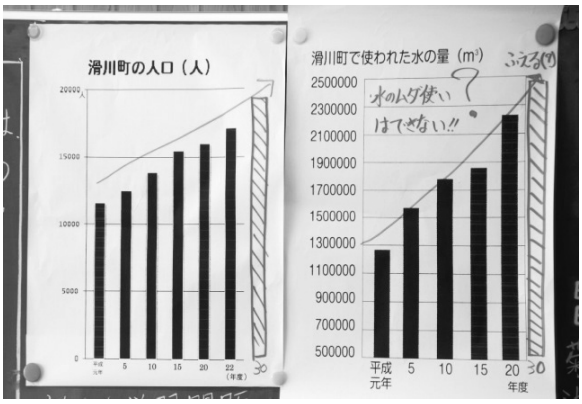
(1)　よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う学習について

「問題解決的な学習過程を２回繰り返す」ことで、１回目の問題解決的な学習過程で飲料水の仕事やダムの開発に関わる人々の工夫や努力、また多くの人々のつながりの中で飲料水が確保されていることを結論として導き出すことができた。２回目の問題解決的な学習において学習問題をつかむ際に、現在までの地域の人口と水道使用量の変化のグラフの読み取りを行い（**資料１**）、今後、人口も水の使用量も増加するだろうと予想を立てた。この学習を行うことで、「このまま水を使っていてよいのだろうか」や「水は限りある資源だから大切に使う方法はないだろうか」と問題を自分のこととしてとらえ、これからの水利用を工夫しようとする意欲をもつ姿が見られた。

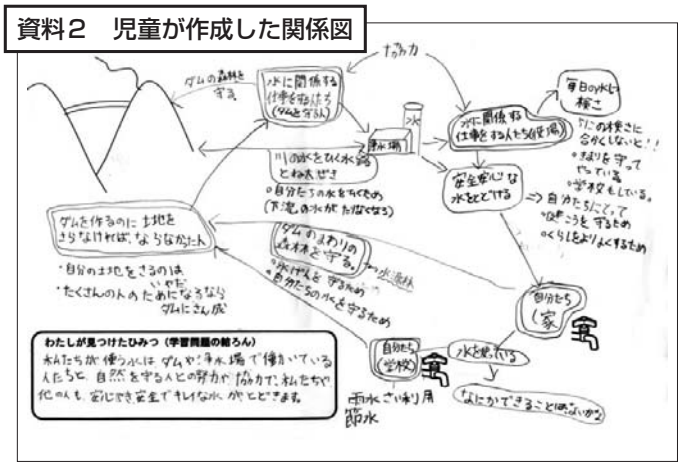
法やきまりに関わる内容

国民の安全な飲料水を確保し良好な生活環境の維持・向上のために、水道法をはじめとする法令や省令がある。法やきまりについて指導する際、50項目の安全基準に対して、毎日の検査に合格しなければ、安全な飲料水として届けられないきまりがあることなど、学習内容に関係する法令を選択し、具体的に指導する必要がある。

資料１　授業で読み取ったグラフ



資料２　児童が作成した関係図



(2)　資料の工夫について

第７～８時では、左記のように、児童は、ダム（水源）から蛇口（自分たち）の関係を基に関係図に表した（**資料２**）。関係がある社会的事象を矢印で結ぶことと、その矢印の意味を書かせることで、児童は水の流れとそれらに携わる人々の関係を関係図に表すことができた。日ごろ、何気なく使っている水は多くの人の協力や工夫、努力の上に確保されていることに気付き、第９時では、学習問題の結論を導き出すことができた。

資料３　児童が作成したポスター

(3)　児童の反応から

第10・11時では、「４年１組水サミット」を行うことで、一人一人の努力で節水をしていくことが必要であるということ、自分たちや地域が協力して節水などの水対策に取り組むことが必要なこと、水道局や会社、工場も節水に協力する必要があることなど自分を取り巻く社会まで視点を広げ、新たな考え方に気付くことができた。これは、自ら今後の水利用について問いかける姿の表れである。その後、今後の水利用についてポスターに表現し、学校に掲示する活動に取り組んだ（**資料３**）。節水など呼びかけるスローガンと絵を描き、全校に呼びかけることで、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこととつながった。

事例2　思考力・判断力・表現力等を育むために、言語活動の充実を図ること

今回の学習指導要領の改訂では、思考力・判断力・表現力等を育むために「言語活動の充実を図る」ことを一層重視している。そのためには、調べたことや社会的事象の特色、相互関連や意味について考えたことを、相手に分かりやすく表現し説明できるようにすることが重要である。そして、「集めた情報から様々なことを読み取ること」、「読み取ったことをもとに、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成すること」、「考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うこと」の３点ができることが必要となる。

１　単元名　第４学年⑸ウ　地域の先人の働き「秩父鉄道と柿原万蔵」

２　小単元について

本小単元で取り上げた秩父鉄道は、明治後期～大正時代に柿原万蔵が中心となって敷設した羽生～熊谷～秩父をつなぐ鉄道である。本小単元では、柿原万蔵の鉄道敷設への熱意、地盤の丈夫さを考慮した敷設計画の変更についての葛藤、延伸工事の苦労や工夫があったことなどを調べ、地域の人々の生活の向上に尽くした柿原万蔵の働きや苦心を考えられるようにすることがねらいである。

また、地域の人々の生活の向上に尽くした柿原万蔵の働きを多くの人々に伝え、広める内容と方法を考え表現することにより、地域社会に対する誇りと愛情を育てていく。

３　小単元の目標と評価規準

秩父鉄道敷設のために生涯を尽くした柿原万蔵について、地図や地形図、文献資料や副読本などを活用して調べ、彼の地域の発展に対する願いや努力が地域の人々の生活向上につながったことが分かり、地域に対する関心をもつとともにその特色やよさを考えるようにする。

テーマにせまる指導のポイント

思考力・判断力・表現力を育むためには
・自分で書く（考える）
・伝え合う（話し合う・見せ合う）
・考えを深め合う　という過程が大切である。

①　書く活動への手立て
・「何について書くのか」という課題を明確に示す。
・資料から「見えるもの」「分かること」「考えたこと」という視点を示す。
・「考えたこと」は、情報を整理したり関連付けたりして根拠を明確にしてまとめるよう指導する。
・課題解決へのヒントとなるキーワードを示す。

②　話し合い活動への手立て
・「何について話し合うのか」という課題を明確に示す。
・話し合わせる際には、１グループ３～４人とする。
・自分の考えを書いたものを用意し、それを基に話すよう指導する。
・考えの変容や深まりが自覚できるように、考えを伝え合い比較する場をつくる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
秩父鉄道敷設のために生涯を尽くした柿原万蔵に関心をもち、それについて主体的に調べ、地域の特色やよさを考えようとしている。	秩父鉄道敷設のために生涯を尽くした柿原万蔵について学習問題をつかんで追究し、地域の人々の生活の向上に尽くした柿原万蔵の働きや苦心について思考・判断したことを言語などで表現している。	秩父鉄道敷設のために生涯を尽くした柿原万蔵について、地図や地形図、文献資料や副読本などを活用して調べ、白地図や年表などにまとめている。	柿原万蔵の地域の発展に対する願いや工夫・努力、苦心、地域の人々の生活が向上したことなどについて理解している。

４　指導計画と評価計画（12時間扱い）

	学　習　活　動　・　学　習　内　容	学習活動に即した評価規準 〈　〉評価方法
つかむ	①②　身近な地域を歩き、昔の様子が伝わるものを調査し、学習問題をつかむ。 ・１００年前の桜新道の様子 ・秩父鉄道の新旧立体交差地点の見学・調査 ・上長瀞駅付近新旧路線図の読み取り ・学習問題をつかむこと 学習問題 柿原万蔵は、どのような願いからどのようにして秩父鉄道をしいたのだろうか。また、願いをかなえることはできたのだろうか。	**関**　かつての線路跡と現在の線路が立体交差している地点を調査し、主体的に調べようとする。〈態度・学習カード〉 **思**　新旧立体交差地点の観察から、秩父鉄道が延伸した理由について話し合い、学習問題をつかみ、その答えの予想を考えている。〈発言・学習カード〉
調べる	③　秩父の地形と当時の人々のくらしの様子から村人の願いと万蔵の思いを調べる。 ・四方を山に囲まれた秩父の地形　・たくさんの峠道 ・山間にある神社や札所　・文化の流入の困難な状況 ・質の良い秩父銘仙や木材の地場産業　・当時の秩父の人たちの願い	**知**　秩父の地形と当時の人々のくらしの様子から村人の願いと万蔵の思いを理解している。〈ノート・学習カード〉
	④⑤　万蔵の業績と事業の範囲を調べる。　**道徳教育との関連** ・年表を読むこと ・私財をつぎ込み鉄道を秩父まで敷設した様子 ・鉄道敷設の順番とかかった年月 ・鉄道を通して秩父を発展させたいという万蔵の願い ・日本鉄道が通っていた熊谷の重要性	**技**　秩父鉄道敷設のために生涯を尽くした柿原万蔵について地図や地形図、文献資料や副読本などを活用して調べ、ワークシートや年表などにまとめている。〈ワークシート・年表〉
	⑥⑦　工事の困難な様子と工夫を調べる。 ・波久礼（はぐれ）の工事の苦労　・親鼻（おやはな）橋の苦労 ・波久礼の工事の工夫　・地盤を考慮した工夫	**知**　万蔵の業績、鉄道敷設工事の困難な様子や工夫・努力、秩父鉄道が地域や埼玉県に与えた影響について理解している。〈ノート・学習カード〉
	⑧⑨　開発前と後を比べて、地域に与えた影響を調べる。　**テーマにせまる指導のポイント①** ・観光客への影響　・秩父からの貨物輸送への影響 ・沿線の人口への影響　・工場や会社設立への影響 ・埼玉県鉄道網への影響　・セメント産業への影響	**思**　秩父鉄道が敷かれて、秩父の人々の生活はどのようになったのかを話し合い、学習カードに表現している。〈ノート・学習カード〉

調べる	・長瀞に与えた影響（ゲストティーチャーへのインタビュー）	
生かす	⑩　万蔵の願いはかなったかどうかを根拠を基に話し合い、学習問題の結論を導き出すとともに、万蔵の願いから現在につながっている秩父鉄道の事業を調べる。 学習問題の結論 ・万蔵は鉄道を通して秩父を発展させたいと願った。 ・万蔵は、羽生から三峰口まで地ばんのじょうぶなところに鉄道をしいた。 ・鉄道がしかれたことで、鉄道えん線の産業がさかんになり、秩父が発展した。 ・万蔵の願いはかなった。 ・万蔵の願いの確認　・現在の秩父鉄道の乗客数・貨物数 ・現在の秩父鉄道の取組と目的	**思**　柿原万蔵の働きについて話し合い、思考・判断したことを言語などで表現している。〈発言・学習カード〉 **技**　現在の秩父鉄道の様子について文献資料や副読本などを活用して調べ、学習カードにまとめている。〈行動・学習カード〉
	⑪⑫　これまでの学習を基にして、万蔵の働きを多くの人々に伝え広めるための内容と方法を考え、作品にまとめる。　**テーマにせまる指導のポイント②** ・万蔵の努力　・万蔵の秩父や鉄道への思い ・駅への掲示　・チラシの配付 ・よりよい作品にするために話し合うこと	**関**　鉄道敷設のために生涯を懸けた万蔵に対して作品を書くことで地域に対する関心をもって特色やよさを考えようとしている。〈作品・学習カード〉

5　実践の工夫と考察

(1)　言語活動の充実を図る学習について

ア　第８・９時では、**資料１・２・３**などにより「鉄道沿線の近くの町村の人口が増えた」「鉄道沿線に工場や会社の数が増えた」「鉄道が敷かれてから貨物量が増えた」という情報の読み取りと万蔵の願いを関連付け、「鉄道が通ったことで沿線に工場や会社ができ、人口も増えた。また貨物量も増えたことで、万蔵の願いである秩父の発展につながった。」という根拠を明確にした答えを導き出すことにつなげることができた。

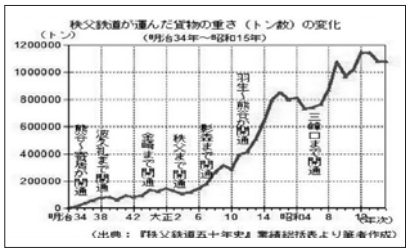
イ　第11時では「万蔵の働きを伝えよう」という課題を基に伝える内容と方法を考えた。児童からは「工事の苦労や工夫」「鉄道が通っての影響」などが挙がり、そこからさらに是非入れたいキーワードを考えた。その結果、「秩父の発展」「波久礼や親鼻の工事」「じょうぶな橋げた」などが挙がった。また、伝える方法を話し合い、「多くの観光客が乗降する長瀞駅の掲示板にはってもらおう」という考えにたどり着いた。そして、第12時では、各自が**資料４**のような作品にまとめ、話し合うことで、「万蔵の働きは、秩父などの発展に大きなえいきょうを与えてきた」といった考えをもつことにつながった。

(2)　資料について

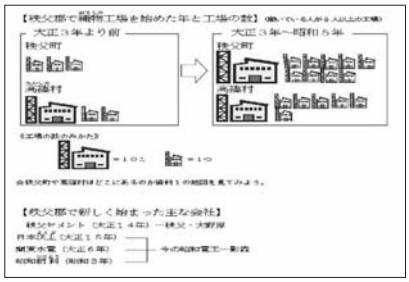
毎時間の終わりに、**資料５**のような学習カードを活用し、本時のねらいに対する自分の考えを自分の言葉で記入できるようにした。活用の際には、自分の言葉で考えを表現することが苦手な児童への支援策として、板書からキーワードを確認したり、適切な内容を記述した児童の発表を参考とするなど思考から表現活動までの過程を大切にした。それによって児童が自信をもって考えを表現できるようになった。また、この積み重ねにより、小単元全体の学習問題に対する結論を導き出す手立てとしても役立った。

資料４は前述の学習のまとめとして地域に伝え広めるための作品であり、学区内の三つの駅に掲示してもらった。人々の願いをかなえ、地域の発展に尽くした先人の働きを学び、その成果を駅利用者に見てもらうことで、地域に対する誇りと愛情を育てることにつながった。

資料１　沿線付近の町村の人口増加
（大正９年～昭和５年）



資料２　鉄道による貨物量が増加



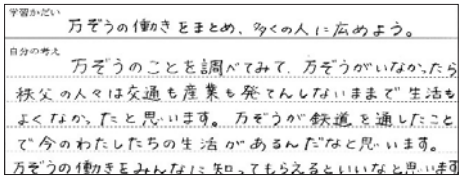
資料３　沿線に工場や会社が増加

道徳教育との関連

本小単元「地域の先人の働き」は、『小学校学習指導要領道徳』ア内容の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の中で、第３学年及び４学年４(5)「郷土の伝統や文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ」ということを道徳的価値として位置付け学習していくことが考えられる。また、イ指導計画の作成と内容の取扱いの配慮事項として「先人の伝記…などを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して（以下略）」と、教材についても言及している。

鉄道敷設前の地域の人々の苦悩と願い、そして、その解決のために熱い思いや願いをもって尽力した柿原万蔵の生き様を伝えるエピソードを紹介した読み物を数多く用意し、熱意や葛藤や苦労を調べることから、地域への誇りと愛情を芽生えさせることへつなげていった。

資料４　万蔵の働きをまとめた作品



資料５　児童の学習カード

事例3　知識・技能、社会的な見方や考え方の活用を図ること

小学校学習指導要領解説社会編では、改善の具体的事項の一つとして、身に付けた知識・技能を活用することが示されている。習得した知識・技能、社会的な見方や考え方を基にそれらを活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが求められている。

1　単元名　第5学年　⑴イ　わたしたちの国土「自然条件と人々のくらし」

2　小単元について

本小単元では、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について学習する。気候条件では気温が高くて台風の多い沖縄県、地形条件では高原の広がる群馬県嬬恋村の人々の生活を取り上げる。二つの事例について調べたことを基に比較・関連付け・総合し、自然を生かしている人々の様々な工夫や努力の共通点をとらえさせる。そして、人々は地形や気候に合わせた生活をしており、人々の生活や産業は、国土の環境と密接な関連をもっていることを考えさせていく。

テーマにせまる指導のポイント

①　事例の学習で得た知識・技能、社会的な見方や考え方を活用し、別の事例を調べる
沖縄の人々の生活や産業についての学習を基に、嬬恋村の人々の生活や産業に関して、新たな学習問題をつかむ。また、嬬恋村の人々の生活や産業について予想し、沖縄の人々の生活や産業と比較しながら調べる。

②　比較・関連付け・総合しながら再構成する
二つの事例の共通点や相違点を話し合い、自然条件と人々の生活や産業の関連を考え、気候条件や地形条件に合わせた生活や産業が行われていることについてまとめる。

3　小単元の目標と評価規準

国土の気候条件や地形条件から見て特色ある地域の人々の生活について、地図帳や統計資料などを通して主体的に調べ、それぞれの自然条件に合わせた生活や産業の工夫をしていることが分かり、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
国土の気候条件や地形条件から見て特色ある地域の人々の生活に関心をもち、気温が高い土地の人々や高原の人々の生活を主体的に調べ、自然条件と人々の生活や産業とのかかわりを具体的に考えようとする。	暖かい土地の人々の生活と高原の人々の生活や産業とのかかわりと工夫について考え、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを言語などで適切に表現している。	暖かい土地の人々の生活と高原の人々の生活ついて、地図帳や統計資料などを通して必要な情報を読み取り、ノートや関係図などにまとめている。	気候条件や地形条件から見て特色ある地域の人々は、それぞれの自然条件に合わせるため、生活や産業の工夫をしていることを理解している。

4　指導計画と評価計画（12時間扱い）

	学習活動・学習内容	学習活動に即した評価規準　〈　〉評価方法
つかむ	①　埼玉県と沖縄県の気候の様子から、学習問題をつかむ。また、沖縄の人々の生活や産業について予想し、関係図に表す。 ・埼玉県の位置と気候（気温、降水量） ・沖縄県の位置と気候（気温、降水量、台風の数、人々の服装） 学習問題 気温が高く、台風の多い沖縄の人々の生活や産業は、どのような様子なのだろうか。 ・学習問題をつかみ、学習計画を立てること	**関**　埼玉県と沖縄県の気候の違い、生活や産業の違いに関心をもち、主体的に調べようとする。 〈発言・態度・ノート〉 **思**　学習問題をつかみ、学習計画を立てている。 〈発言・学習カード〉
調べる	②　沖縄の伝統的な家や現在の家の工夫について調べ、関係図にまとめる。 ・伝統的な家：漆喰固めの屋根、石垣、風通しの工夫 ・現在の家：コンクリートづくり、平らな屋根、タンク ③④　沖縄の産業、文化や自然を守る取組などについて調べ、関係図にまとめる。 ・農業（さとうきび、菊、パイナップルなどの栽培） ・観光業（マリンスポーツ、文化遺産）・文化や自然を守る取組	**技**　沖縄の伝統的な家や現在の家の工夫、産業、文化や自然について調べ、人々の生活と気候、産業と気候との関わりについて、関係図にまとめている。　〈発言・態度・関係図〉 **知**　沖縄の伝統的な家や現在の家の工夫、産業、文化や自然、人々の生活と気候、産業と気候との関わりについて理解している。 〈発言・関係図・ノート〉
生かす	⑤　これまで調べたことを基に話し合い、学習問題の結論を導き出す。 学習問題の結論 沖縄の人々は、あたたかさを生かしたさとうきびなどの栽培や、マリンスポーツなどの観光業をしたり、台風に備えた生活をしたりしている。また、文化や自然を守る取組を進め、観光に生かしている。	**思**　調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を導き出し、ノートに表現している。 〈発言・ノート〉
つかむ	⑥　自分の住む地域と群馬県嬬恋村の地形の様子から、新たな学習問題をつかむ。また、嬬恋村の人々の生活や産業について予想し、関係図に表す。**テーマにせまる指導のポイント①** ・○○市の位置と地形（低地や丘陵といった地形と気候） ・嬬恋村の位置と地形（高原、海抜、冷涼な気候） 新たな学習問題 嬬恋村の人々も、高原に合わせた生活や産業をしているのだろうか。 ・学習問題をつかみ、学習計画を立てること ・関係図に表すこと	**関**　○○市と群馬県嬬恋村の地形の違い、生活や産業の違いに関心をもち、主体的に調べようとする。 〈発言・態度・ノート〉 **思**　学習問題をつかみ、学習計画を立てている。 〈発言・学習カード〉

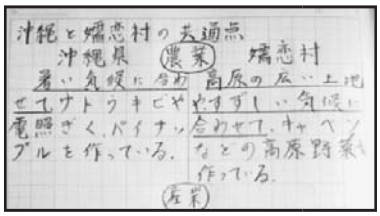
調べる	⑦⑧⑨　嬬恋村の家の工夫、産業、自然などについて調べ、関係図にまとめる。 ・土砂災害に合わせた土留めや避難体制の整備 ・農業（キャベツなどの高原野菜の栽培） ・高原の豊かな自然を生かした観光やレジャー **情報ネットワーク・図書の活用**	**技**　嬬恋村の家の工夫、産業、自然について調べ、人々の生活と地形や冷涼な気候、産業と地形や冷涼な気候との関わりについて、関係図にまとめている。〈発言・態度・関係図〉 **知**　嬬恋村の家の工夫、産業、自然、人々の生活と地形や冷涼な気候、産業と地形や冷涼な気候との関わりについて理解している。〈発言・関係図・ノート〉
生かす	⑩　これまで調べてきたことを基に、新たな学習問題の結論を導き出す。 新たな学習問題の結論 嬬恋村の人々は、高原の自然や涼しい気候を生かした高原野菜のさいばいや、観光業などをしたり、土しゃ災害に備えた生活をしたりしている。 →　つまり、嬬恋村の人々は、沖縄の人々と同じように、高原に合わせた生活や産業をしている。	**思**　調べたことを基に学習問題について話し合い、結論を導き出し、ノートに表現している。〈発言・ノート〉
	⑪　沖縄と嬬恋村の人々の生活や産業を比べて話し合う。**（本時11／12時）** ・沖縄県の台風や嬬恋村の土砂災害に備えた生活 ・自然条件（気候条件、地形条件）を生かした産業 ［・沖縄県のサトウキビ、菊栽培　・嬬恋村のキャベツ栽培 ・観光を中心とした産業が盛んなこと］ **テーマにせまる指導のポイント②**	**思**　国土の自然条件と人々の生活や産業との関わりについて考え、人々が自然災害に備えて生活したり、自然条件に合わせた生活や産業の工夫をしていることを表現している。〈発言・ノート〉
	⑫　日本の他の地域の人々の生活について調べ、紹介し合う。 ＜気候条件＞　・雪の多い地域　・雨の少ない地域　など ＜地形条件＞　・低地　・山地　・盆地　など	**関**　日本の他の地域の自然条件と人々の生活や産業について主体的に調べている。〈ノート・態度〉 **思**　沖縄や嬬恋村と比較し、共通点や相違点など自分の考えを表現している。〈ノート・発言〉

5　本時の学習指導（11／12時）

⑴　目　標

国土の自然と人々の生活や産業との関わりについて考え、自然条件に合わせて生活したり、自然条件を生かした産業を行ったりしていることを表現する。（社会的な思考・判断・表現）

⑵　展　開　（「評価と指導の工夫」の評、→は、目標に関わった評価と指導を表す。）

学習活動	学習内容	評価と指導の工夫	資料・準備	時間
1　本時のめあてを確認する。 気候や地形と人々の生活や産業はどのような関係があるのだろうか。		○前時までを振り返り、本時の学習に見通しをもたせる。		3’
2　沖縄県の気候の特色、嬬恋村の地形の特色、人々の生活や産業について比べ、共通点や相違点を話し合う。 **共通点や相違点についての話し合い**	【沖縄県】 ・台風に備えた家づくり ・水不足に備えた水タンク ・暖かさを生かした農業 サトウキビ、菊　など ・自然を生かした観光産業 【嬬恋村】 ・土砂災害に備えた土留め整備 ・寒さに対する生活の工夫 ・キャベツなどの高原野菜の栽培 ・高原の豊かな自然を生かした観光やレジャー ・地形や海抜による冷涼な気候を生かした農業や産業	○前時までに使用した図や写真を掲示し、視覚を通しても振り返ることができるようにする。 ○沖縄県と嬬恋村の事柄を左右に分けて板書する。  沖縄と嬬恋村の共通点 沖縄県　農業　嬬恋村 暑い気候に合わせてサトウキビや電照ぎく、パイナップルを作っている。 高原の涼しい気候に合わせて、キャベツなどの高原野菜を作っている。 （工業） **共通点や相違点を書く**	・沖縄、嬬恋の生活や産業の写真	15’
3　個人で書いたことを基に項目ごとに付箋紙で色分けし、共通点を小グループで話し合い、発表する。 **テーマにせまる指導のポイント②**	○沖縄県と嬬恋村の人々の生活や産業の共通点 ・自然災害に備えた生活 ・自然条件を生かした農業 ・豊かな自然を生かした観光産業	○付箋紙で「生活（生活）」、「農業」、「産業」の項目に分類し、両方の地域で共通していることをまとめる。	・付箋紙 ・画用紙	17’
4　気候や地形と人々と生活や産業との関係を、「気候や地形」、「人々の生活や産業」、「工夫や努力」のキーワードを使ってまとめ、発表し合う。	○気候や地形と人々の生活や産業との関わり ○話し合いを基に、キーワードを使って作文を書くこと	評　国土の自然と人々の生活や産業との関わりについて考え、人々が自然災害に備えて生活したり、自然条件に合わせた生活や産業の工夫をしていることを表現している。【思】〈発言・ノート〉 →表現できている児童には、活動を認めて称賛するとともに、根拠を明確にして表現できるよう促す。 →表現につまずいている児童には、板書を基に例を示してからキーワードを使ってまとめることができるようにする。		10’

6　実践の工夫と考察

⑴　知識・技能、社会的な見方や考え方の活用について

第６時では、沖縄県の人々の生活や産業について学習し身に付けた知識・技能、社会的な見方や考え方を活用させ、新たな学習問題「嬬恋村の人々も、高原に合わせた生活や産業をしているのだろうか。」をつかませた。そして、嬬恋村の人々の生活や産業について、「沖縄の人々は、気温の高さや台風のことを考えて生活していたので、嬬恋村も高原という地形に合わせた生活をしていると思う。」、「沖縄は気温が高いことを生かしてサトウキビを作ったり、観光を盛んにしたりするなどの工夫をしていたので、嬬恋村も涼しさを生かした農業やその他の産業を行っていると思う。」などの予想を立てた。また児童は、沖縄県の生活で学習した関係図の作成という技能と気温や災害といった地理的な見方を活用するとともに沖縄県の生活や産業と比べながら調べることができ、二つの事例の共通点や相違点を話し合い、自然環境と生活や産業の関連を考えることができた。

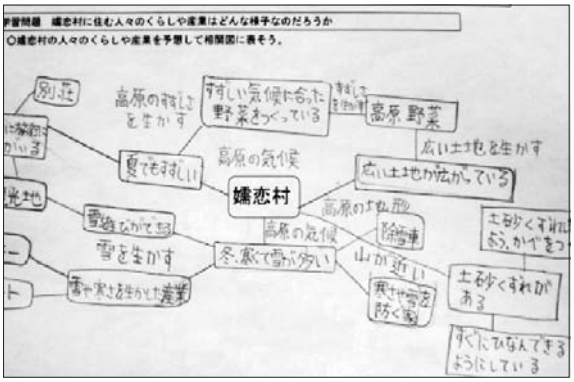
情報ネットワーク・図書の活用

- 嬬恋村 HP など、公的なサイトを活用して調べさせる。
- 教師が事前にリンク集を作成し、効率よく調べられるようにし、インターネットで調べること自体が目的とならないよう留意する。
- 年間指導計画に図書の活用を明記し、計画的に図書購入を進め、単元に関わる図書を充実させる。
- 事例の位置や地形をつかむために繰り返し地図帳を活用する。
- 出典等を明確にし、信頼できる情報かどうかを判断して資料の収集をするよう指導する。
- 調べたことを書き写すのではなく内容を読み込み、自分の言葉でまとめるよう指導する。

⑵　資料について

ア　関係図の作成

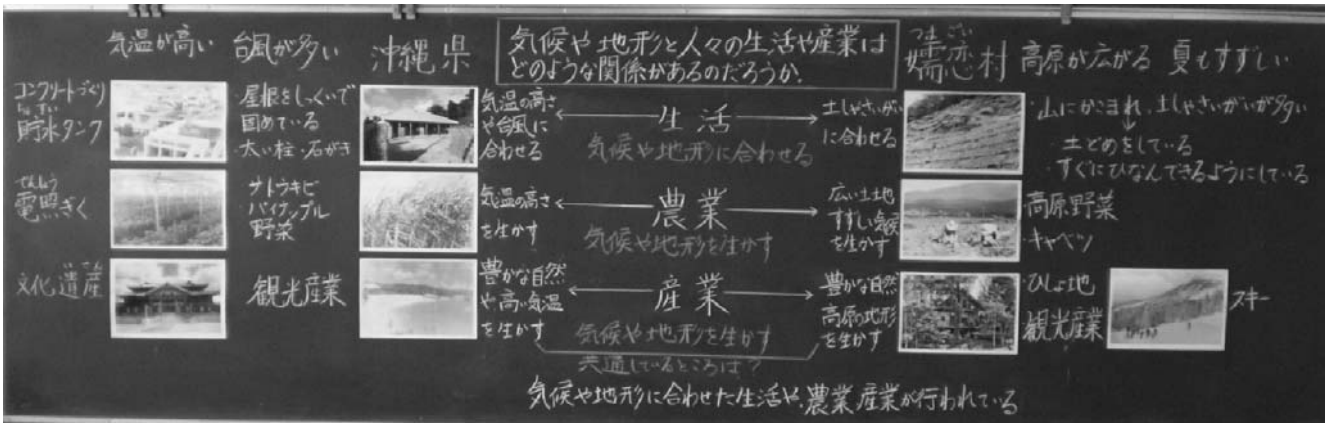
自分が調べたことを線で結び、互いの関係を書き込むことにより、全体の構造・構成をまとめることができる。本実践では沖縄、嬬恋の生活や産業の様子について予想したことを関係図**（資料１）**に記し、調べて分かったことを書き加えることにより、予想に対する検証を行った。また関係図を生かして共通点や相違点を話し合い、学習問題に対する結論「嬬恋村の人々は、高原の自然や涼しい気候を生かした高原野菜の栽培や観光業などを営み、土砂災害にあわないために工夫した生活をしている。つまり、嬬恋村の人々は、沖縄の人々と同じように、高原という自然条件に合わせた生活や産業の工夫をしている。」を導き出した。



資料１　児童が作成した関係図

イ　板書の工夫

第11時では、二つの事例地を左右に分け、生活、農業、産業の項目と写真資料を示し、項目ごとに対応させながら板書した**（資料２）**。児童の思考を促したり思考を整理させたりするため、構造的にして視覚的に分かりやすくした。



資料２　第11時の板書

⑶　児童の反応

第６時では、沖縄の人々が気候条件に合わせた生活や産業を行っていることから、嬬恋村の人々の生活や産業も、地形条件に合わせているのではないかと考え、新たな学習問題をつかみ、その予想をすることができた。

第11時では、「沖縄では気温の高さや台風、嬬恋村では土砂災害に備えて生活している。」「沖縄の人々は暖かい気候を生かしてサトウキビを作り、嬬恋村の人々は高原の広い土地と涼しい気候を生かして高原野菜を作っている。」「どちらも豊かな自然や、気候・地形を生かして観光産業が盛んになっている。」など、生活、産業の視点で共通点を見いだし、これらのことから「気候条件や地形条件に合わせた生活や農業などの産業を工夫している」とまとめることができた。

事例４　作業的、体験的な学習の一層の充実を図ること

今回の学習指導要領改訂では、「作業的、体験的な学習」が一層重視されており、観察や調査・見学などの活動を指導計画に適切に位置付けて効果的に指導していくことが求められている。そのためには、社会科としての作業的、体験的な学習のねらいを明確にするとともに、それによって分かったことや考えたことを適切に表現する活動を通して、調べたことのみならず、考えたことを表現する力を育てることを重視していくことが必要である。

１　単元名　　第５学年⑶　ウ　工業生産とわたしたちの生活「自動車工業のさかんな豊田市」

２　小単元について

本小単元は、工業生産に従事する人々の工夫や努力、工業生産を支える運輸などの働きについて、見学したり資料などを活用したりして調べ、我が国の工業生産は、国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えることがねらいである。まず、「つかむ」過程では、ペーパーカーによる製造ラインを疑似体験し、考えたことを基に学習問題をつかむ。次に、「調べる」過程では、自動車工場の概要をおさえ、調べたことを工場マップにまとめて見学のポイントを絞り、実際に自動車工場への見学・調査を行う。最後に、「生かす」過程では、見学・調査をして分かったことから、学習問題の結論を導き出す。そして、学習問題の結論を基に、自動車工業に携わる立場として近未来モーターショーを開催し、作成した自動車カタログを発表し合った後、新聞を作成する。

テーマにせまる指導のポイント

① **疑似体験をして工夫や問題をつかむ。**
印刷された部品を切り取り、短時間で車を大量生産する疑似体験をすることから、工業従事者の視点をもって製造ラインの工夫をつかむ。

② **工場見学を行い、調査結果を基に話し合う。**
工場の工夫をまず資料から調べ、それから見学の計画を立てる。見学後、最初の考えとの違いや共通点を話し合う事前事後の工夫を行う。

③ **生産者の立場から計画を立て発表する。**
自動車工業に携わる立場として、新たなコンセプトカーの計画を立て、近未来モーターショーを開催し、パビリオン形式で発表し合う。

３　小単元の目標と評価規準

自動車工業について、地図や地球儀、統計資料などの各種の基礎的資料を活用したり工場見学をしたりして調べ、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える運輸などの働きが分かり、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考える。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
自動車工業の様子に関心をもち、それらを主体的に調べようとするとともに、自動車工業が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えようとしている。	自動車工業の様子から学習問題をつかみ、追究し、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	自動車工業の様子を地図や地球儀、統計資料などの各種の基礎的資料を通して調べ、ワークシートなどにまとめている。	自動車工業に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える運輸などの働きを理解している。

４　指導計画と評価計画（12時間扱い）

	学　習　活　動　・　学　習　内　容	学習活動に即した評価規準　＜　＞評価方法
つかむ	①　製造ラインの疑似体験を通して、工業生産の様子に関心をもち、学習問題をつかむ。 ・製造ラインを工夫していること　　・消費者のニーズ ・多くの労働者 **テーマにせまる指導のポイント①** 学習問題 自動車工業で働く人々は、消費者の要望に応えるために、どのようにして車を製造しているのだろうか	**思**　製造ラインの疑似体験や私たちのニーズを基に話し合い、学習問題をつかんでいる。 ＜発言・学習カード＞
調べる	②③④　自動車工業（豊田市）について教科書を中心とした資料で調べ、ワークシート①（工場マップ）にまとめる。 ・関連工場の組み立ての作業に合わせた製造の工夫 ・製造された自動車はトラックや車で出荷されること ・社会や消費者のニーズを考えた自動車づくり	**技**　我が国の自動車工業の様子について、教科書や統計資料などの基礎的資料を通して調べ、ワークシート①（工場マップ）にまとめている。 ＜行動・ワークシート①（工場マップ）＞
	⑤　豊田市の自動車工場について調べたときに生じた疑問や考えたことを基に、自動車工場の見学・調査の計画を立てる。 ・計画を立て、見学の目的を明らかにすること **テーマにせまる指導のポイント②**	**思**　自動車生産について疑問をもったことや考えたことから見学の計画を立てている。 ＜発言・ワークシート②（見学計画書）＞

	⑥⑦　自動車工場の見学・調査を行い、気付いたことや分かったこと、インタビュー内容をワークシート（工場マップ）にメモする。 ・ジャストインタイム方式での部品の注文 ・流れ作業による大量生産　**テーマにせまる指導のポイント②**	**知**　工業生産に従事している人々の工夫や願いを理解している。＜発言・ワークシート②＞ **技**　工業生産の様子を調査し、資料を活用してまとめている。　＜ワークシート②・行動＞
生かす	⑧　工場見学・調査の結果を記録したワークシート（工場マップ）とこれまでの学習を基にして、学習問題の結論を話し合う。 ・地域のいくつもの工場と関連して多くの労働者がいること ・働く人々の意見が製造ラインに活かされていること ・開発は、消費者や社会のニーズに応える努力をしていること ・原材料の確保、販売や輸送など国内外と関係していること **学習問題の結論** 自動車会社で働く人々の様々な工夫と努力によって、消費者の求めている自動車が開発されている。自動車工場では様々な工夫をして効率よく組み立て、関連工場ではそれに合わせて部品を作っている。	**思**　学習問題の結論を話し合い、自動車工業で働く人々が、消費者の要望に応えるために、どのようにして車を製造しているかを考え適切に表現している。 ＜発言・ノート＞
	⑨⑩　学習問題の結論を基に、小グループごとで、近未来自動車について考え、モーターショーの準備を行う。 ・私たちの生活との関連　・環境への配慮　・快適な乗り心地 ・安心、安全な機能 ・自動車のキャッチコピー　**テーマにせまる指導のポイント③**	**関**　学習問題の結論を基に、近未来の自動車について考え、モーターショーの準備をしようとする。　＜態度・学習カード＞
	⑪⑫　モーターショーを開催し、これからの日本の自動車工業について話し合うとともに、新聞記者としてモーターショーの様子を新聞にまとめる。（本時 11・12／12 時） ・近未来の自動車に求められること	**思**　モーターショーの発表・取材を通して、国民生活と自動車工業の関係を考え、新聞に適切に表現している。 ＜新聞・発言＞

5　本時の学習指導　（11・12／12時）

⑴　目　標

クラスで開催する模擬モーターショーの発表・取材を通して、国民生活と自動車工業の関係を考え、新聞に適切に表現する。　（社会的な思考・判断・表現）

⑵　展　開　（「指導と評価の工夫」の評、→は、評価の場面、評価方法、指導を表す。）

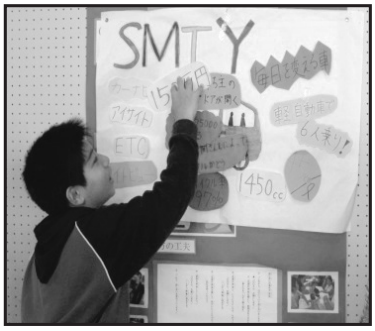
学習活動	学習内容	評価と指導の工夫	資料・準備	時間
1　本時のめあてを確認し発表と取材の準備をする。		○各グループの発表の準備が順調にできているか確認をする。	・車の模型 ・イラスト	5’
モーターショーを開き、自分たちが考えた近未来の自動車との工夫を発表・取材しよう。				
2　モーターショーを開き、コンセプトカーの工夫を発表する。 （第１部） 提案：第①～④班 取材：第⑤～⑧班 （第２部） 提案：第⑤～⑧班 取材：第①～④班	○調べる視点 ・自分たちの生活と自動車産業の関係 ○近未来の自動車による国民生活 ・人や品物が早く運べるようになる ・原材料や製品を大量に運び安くする ・環境への配慮が進む ・快適な乗り心地になる ・安心、安全な機能 ・効率よい生産で価格が下がる	○生活との関連を意識した内容を発表するよう確認する。 ○モーターショーの進め方 ①グループで考えた現在の自動車と国民生活のつながりを示す。 ②コンセプトカーのイラストとカタログを提示し、現行車との違いを示す。 ③近未来カーによる国民生活の変化を発表する。 ④記者からの質問を受ける。 ○各グループを取材しコンセプトを自分の言葉でまとめられるようにする。	・コンセプトカーのイラスト ・カタログ ・カメラ ・取材メモ	40′ (20’) (20’)

3　記者として取材した内容と考えたことを新聞にまとめる。	○新聞に表現すること	○あらかじめ新聞のレイアウトを教師が決め、短時間で書けるよう配慮する。		35’
4　国民生活と自動車工業との関連について記事を発表する。	評モーターショーの発表・取材を通して、国民生活と自動車工業の関係を考え、新聞に適切に表現している。【思】〈新聞・発言〉 →自動車によって品物の輸送や人々の移動がスムーズになり私たちの生活が便利で快適なものになっていることに気付いた児童については称賛し、さらによい自動車づくりに必要な視点を考えるように促す。 →国民生活への関係について考えが表現できていない児童には、近未来の自動車づくりには、どのような工夫がされているか、資料や発表メモからつかめるように対話を通して支援・助言していく。	○代表のみの発表に留める。		10’

6　実践の工夫と考察

(1)　作業的、体験的な学習の一層の充実を図ること

まず、第１時において、製造ラインの疑似体験を行い、工業従事者の視点になって車を効率的に作るための工夫を考えた。次に、第２～４時では製造ラインの工夫を資料から追究して調べ、第５時では生じた疑問を調べるための視点を決めることで、具体的な見学の計画を立てた。それによって、第６・７時では、工場の見学に主体的に取り組み、第８時では、見学前の予想と見学後の結論との違いや共通点を具体的に話し合えた。最後には、工業従事者としての視点も加味した発表ができた。



環境学習のための工夫について

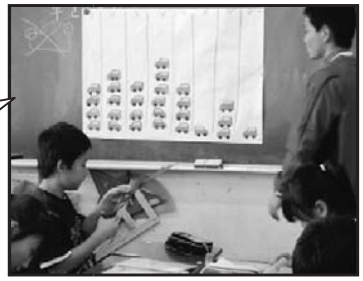
○まず、社会のニーズに合わせ、環境を意識して自動車の開発が行われていることを調べ、その後、実際に工場の見学・調査を行い、リサイクルを意識した工場の工夫に注目させることができた。

○第９時におけるキャッチコピー作成時には、現行車との違いをカタログに数値化させることにより、児童はまず現行車の環境への配慮を深く理解した上で、目標値を決め、コンセプトカーの売りとして具体的に示すことができた。

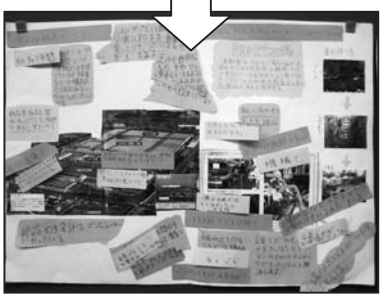
【作ったカタログで社員の立場で発表する】

(2)　資料について

製造ラインの疑似体験から、工場の工夫について気付くことができた。（第１時）



近未来のモーターショーという目的をもつことで、より具体的なコンセプトカーを考えることができた。



工場マップを作成し、工場見学のポイントを明確にすることができた。実際の工場見学で分かったことを記入することで自動車工業に携わる人々の工夫について理解し、「生かす」過程でモーターショーを開催できた。（第２～４・８時）

○児童のノートから　（第 12 時）

自動車工業に携わる人々は、車を使う人のことをいつも考え、指示書などの様々な工夫をしていた。（中略）将来自分たちが考えた自動車でみんなの生活が便利になって喜んでほしいと思った。

(3)　児童の反応から

製造ラインの疑似体験から、視点が消費者から生産者へと自然に移り、工業従事者の立場から自動車工業の工夫について調べていた。体験から生じた疑問で、資料からは分からなかった内容から、自動車工場の見学の計画を立てた。見学の視点を明確化することで、見学後に再び計画前の疑問に立ち戻り、自動車工業の工夫について話し合うことができた。最後に、自動車工業の工夫を基に近未来のモーターショーを開催することにより、生産者の視点と消費者の視点から日本の自動車生産と国民生活との関わりを考えることができた。

事例５　文化遺産を通して我が国の歴史の学習を深めること

我が国の歴史に関する学習の改善として、今回の小学校学習指導要領の内容の取扱いには、新たに「例えば，国宝，重要文化財に指定されているものや，そのうち世界文化遺産に登録されているものなどを取り上げ，我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮すること」が加えられた。文化遺産と歴史上の人物や出来事を結び付けて取り上げたり、年間指導計画の中に扱う文化遺産を位置付けたりすることで、文化の学習を充実させることが大切である。

１　単元名　　第６学年　⑴　ケ　日本の歴史　「新しい日本の出発」

２　小単元について

本小単元は、日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かることがねらいである。

「つかむ」過程では、代表的な文化遺産として世界文化遺産である原爆ドームを取り上げ、戦争の恐ろしさや悲惨さを考えさせ、平和を願う人々の思いを捉えさせる。また、「調べる」過程では、戦時中の様子を知るために博物館や資料館などを利用し見学したり、学芸員から話を聞いたりして具体的に理解させていく。

テーマにせまる指導のポイント

① 我が国の世界遺産、国宝、重要文化財を取り上げる。
・代表的な文化遺産を通して学習を具体的にする。
・我が国の歴史については全ての単元を通して文化財を取り上げるよう工夫する。
・県指定の重要文化財も取り上げて、歴史への関心や理解を深める。
② 我が国の歴史や文化を大切にし、日本人としての自覚をもつようにする。
・伝統や文化に関する学習との関連を図り、先人の工夫や努力によって生み出されたものであることを理解させる。
③ 文化遺産が引き継がれてきた経緯を大切にする。
・自分たちも継承者になることを意識した学習にする。

３　小単元の目標と評価規準

日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催など、その頃の国民生活とそれらに関わる代表的な文化遺産について、文化財や地図、年表、その他の資料を活用して調べて、各地の空襲、沖縄戦、原子爆弾投下など国民が大きな被害を受けたこと、戦後我が国が民主的な国家として出発したこと、国民生活が向上するとともに国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かり、平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていく大切さについて考える。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などその頃の国民生活とそれに関わる代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしたり、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えようとしたりしている。	日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などその頃の国民生活とそれに関わる代表的な文化遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。また、戦時体制に移行して、敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、代表的な文化遺産の意味、戦後に民主的な国家として出発し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていく大切さについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。	日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などその頃の国民生活とそれに関わる代表的な文化遺産について、地図や年表、戦争を体験した方や資料館の方の話、文化財などを活用して必要な情報を集めて読み取り、学習カードにまとめている。	戦時体制に移行して、戦争によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことや戦後に民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。

４　指導計画と評価計画（10時間扱い）

	学　習　活　動　・　学　習　内　容	学習活動に即した評価規準　〈　〉評価方法
つかむ	①　原爆ドームが世界文化遺産になった理由を話し合い、学習問題をつかむ。（本時１／10時） ・３枚の原爆ドームの写真を見て考えたこと ・原爆ドームが世界文化遺産になった理由 情報教育の充実　テーマにせまる指導のポイント①	**思**　原爆ドームが世界文化遺産である理由から、第二次世界大戦の様子と人々の生活について学習問題をつかむ。〈発言・学習カード〉
	学習問題 世界文化遺産である原ばくドームが現在のような姿になったのは、どのような戦争によるものだろうか。また、そのころの人々はどのような生活をしていたのだろうか。	
調べる	②　日本が中国で行った戦争はどのような戦争だったのか、また、戦争はどのようにして世界に広がったのかを調べる。 ・満州事変、日中戦争を起こした理由や戦争の広がり ・戦場となった中国の被害の様子	**技**　日中戦争や戦争の広がりについて地図や年表、資料を活用して必要な情報を読み取ってまとめている。〈行動・ノート〉 **思**　戦争の広がりを当時の我が国の状況と関連付けて考え、資源を求めて米英などと対立し戦争が広がったことを考え、表現している。〈発言・ノート〉
	③　戦争中、人々はどのような生活をしていたのか、空襲によってどのような被害を受けたのかを調べる。 ・埼玉県平和資料館の「ピースキャラバン（出前授業）」 テーマにせまる指導のポイント②	**技**　戦時中の生活の様子についてピースキャラバンの学芸員の話や資料から、国民生活のすべてが戦争に注がれたことを読み取ってまとめている。〈発言・学習カード〉

生かす	・戦争中の生活の様子、空襲の様子	**知**　空襲による被害で、兵士以外にも多くの国民が日本の各地で犠牲になったことが分かっている。〈ノート・発言〉
	④　戦争はどのようにして終わったのかを調べる。 ・沖縄戦の経緯、戦争の終結（原爆投下や玉音放送） 情報教育の充実	**知**　沖縄戦、広島・長崎への原爆の投下により、多くの人々が犠牲になって敗戦を迎えたことが分かっている。〈発言・ノート〉
	⑤　１５年にわたる戦争を振り返り、学習問題について話し合い、結論を導き出す。	**思**　学習問題の結論を話し合い、戦争に対する自分の意見を適切に表現している。　〈発言・学習カード〉
	学習問題の結論 ・はじめは中国と戦っていたが、しだいにアジア・太平洋の地域に戦場が広がっていった。 ・戦争が生活に優先したり、大きな被害を受けたりして、国民は苦しい生活をしていた。 ・各都市への空しゅう、沖縄戦や広島・長崎への原ばく投下などにより大きな被害を受けて敗戦した。 ・世界の戦場となった地域に大きな損害を与えた戦争だった。	
つかむ	⑥　新宿のまちの様子の変化や、戦争が終わった後の社会の変化について話し合い、学習問題をつかむ。 ・戦争の終結直後、東京オリンピックの頃、現代の様子 情報教育の充実	**思**　戦争が終わった後の社会の変化について話し合い、学習問題をつかむ。　〈発言・学習カード〉
	新たな学習問題 戦争が終わってから、どのようなことがあり、日本はどのように変わっていったのだろうか。	
調べる	⑦　戦後行われた改革や日本国憲法、国際社会の復帰を果たす日本の様子について調べる。 ・戦後の改革　・日本国憲法の制定 ・サンフランシスコ平和条約　・独立の承認 ・国際連合への加盟　・経済の復興（三種の神器）	**技**　各種の資料から我が国が民主的な改革と平和主義的な日本国憲法を制定することにより新しい国として出発したことを読み取ってまとめている。〈発言・ノート〉 **知**　国際社会の動きの中で日本の独立が承認され、復興を願う国民の努力によって産業が発展していったことが分かっている。〈発言・ノート〉
	⑧　東京オリンピックの開催の様子や当時の人々の気持ち、国民生活の変化について調べる。 ・アジアで最初のオリンピック　・東海道新幹線の開通 ・高度経済成長や環境問題　情報教育の充実	**知**　オリンピックの開催が契機になり、国際社会に認められるとともに、さらに経済が発展し、国民の生活が向上したことが分かっている。〈発言・ノート〉
生かす	⑨　現在の日本が抱える課題や果たすべき役割について調べ分かったことや考えたことを話し合い、学習問題の結論を導き出す。	**思**　学習問題の結論を話し合い、現在の日本が抱える課題や果たすべき役割について考え、平和で民主的な日本の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さを表現している。〈発言・学習カード〉
	新たな学習問題の結論 ・戦後の民主的な改革と日本国憲法の制定などがあり、日本は国際社会から独立が承認された。 ・オリンピックの開さいがきっかけで、産業が急速に発展し、国際社会に認められた。 ・国民の生活が向上したが、環境問題も生まれた。	
	⑩　歴史の学習を通して感じたことや考えたことを作文に書いて発表する。 ・各時代の人々の努力の積み重ねにより、今の日本があること ・よりよい日本をつくるために各時代の歴史を教訓として生かすこと	**関**　過去を知ることにとどめず、日本の将来を考えるために、歴史の学習を役立てようとしている。〈作文・発表〉

５　本時の学習指導　（１／10時）

⑴　目　標

原爆ドームが世界文化遺産である理由から、第二次世界大戦の様子と人々の生活について学習問題をつかむ。

（社会的な思考・判断・表現）

⑵　展　開（「指導と評価の工夫」の評、→は、評価の場面、評価方法、指導を表す。）

学　習　活　動	学　習　内　容	評　価　と　指　導　の　工　夫	資料・準備	時間
１　これまでの学習を振り返り、世界文化遺産について知っていることを発表する。	○世界遺産の確認 ・法隆寺 ・京都（金閣寺等） ・日光（東照宮等） ・平泉（中尊寺等）、他	○既習の世界文化遺産を取り上げ、知っていることを発表させる。 ○世界文化遺産は人類全体のための遺産として保護、保存していることを押さえる。	・写真資料（法隆寺、金閣寺、東照宮、中尊寺）	3’
２　本時のめあてを確認する。				2’
原ばくドームが世界文化遺産になった理由を話し合い、学習問題を考えよう。				
３　３枚の原爆ドームの写真を見て、気付いたことや考えたことを話し合う。	○原爆ドーム ・投下前は産業奨励館 ・投下後の建物と周りの様子	○写真を見比べ、建物と広島のまちの変化を読み取らせるようにする。 ○「音」や「におい」など写真の向こう側にある人々の生活やまちの	・写真資料（投下前、投下直後、現在	10’

	・現在の様子	様子を想像させるようにする。	の様子）	
4　原爆ドームが世界文化遺産になった理由を話し合う。	○平和を希求する心 ○悲劇を繰り返さない決意 ○核兵器や戦争をなくし平和を実現する人々の意志	○平和記念資料館館長の話を丁寧に読み取らせ、原爆ドームが世界文化遺産になった理由を考えさせる。	・平和記念資料館の館長の話	10’
5　映像資料「原爆ドーム」を視聴する。	○核兵器の被害の大きさ ○国民が戦争によって受けた傷跡の大きさ	○原爆の映像を見ることにより核兵器の被害の大きさを捉えさせる。	・大型テレビ ・パソコン	5’
6　戦争の原因や様子、人々の生活の様子などを話し合い、学習問題をつかむ。	○戦争の原因や様子 ○人々の生活の様子	評　原爆ドームが世界文化遺産である理由から、第二次世界大戦の様子と人々の生活について学習問題をつかむ。【思】 〈発言・学習カード〉 →学習問題をつかめた児童には、調べる内容や方法を具体的に考えさせるようにする。 →学習問題をつかむことができない児童には、原爆ドームを世界文化遺産として保存している意味を確認し、資料などで補足説明する。		15’
学習問題 世界文化遺産である原ばくドームが現在のような姿になったのは、どのような戦争によるものだろうか。また、そのころの人々はどのような生活をしていたのだろうか。				

6　実践の工夫と考察

⑴　文化遺産を通して歴史の学習を深めること

この小単元では、「つかむ」過程において、代表的な文化遺産として、世界文化遺産に登録されている原爆ドームを取り上げて指導した。原爆ドームは、戦争を非難する世界遺産であり、歴史の「負の遺産」である。戦争を非難する気持ちや平和を求める気持ちは、世界共通であるということを、この遺産から子どもに学ばせていく。産業奨励館の写真、原爆投下直後の写真、現在の原爆ドームの写真を順に示し、「なぜ壊れたのか」「なぜ壊れた建物が世界遺産になったのか」という疑問につなげて学習を進めた。児童は、これまで学習したほかの文化遺産と比べ異質に感じていたようだが、原爆ドームを保存、維持してきた人々の思いや世界中の平和を願う人々の気持ちを考えることができ、歴史の学習が深まった。

⑵　資料の工夫について

第３時では、地域にある素材の教材化や地域人材の積極的な活用ということで、埼玉県平和資料館の「ピースキャラバン（出前授業）」を活用した。これは、平和資料館の学芸担当職員をゲストティーチャーとして招いて授業を行ったものである。生きた教材として戦争体験者の経験を聞くことが年々難しくなってきている中で、戦争に関した資料も充実している「ピースキャラバン」の授業は、児童にとってとても貴重な学習となった。

第１・４・６・８時では、映像資料を活用して学習を進めた。この実践での映像資料は、NHK のデジタル教材を活用した。戦争当時の実際の映像が内容ごとに解説付きで２～５分程度にまとめられている。児童は実際の映像を見ることで、より具体的に学習内容を捉えることができた。

⑶　児童の反応から

第二次世界大戦について、「つかむ」過程で世界文化遺産である原爆ドームを扱うことで、単に戦争の内容を調べるにとどまらず、平和的な視点から戦争について調べる学習を進めることができた。振り返りでは、「戦争や原爆の恐ろしさが分かった。」「これからわたしたちが原爆ドームを保存していかなければならない。」などの感想があった。原爆ドームのどんな価値が世界文化遺産として認められたのかという投げかけにより、「核兵器の被害を伝え、同じ悲劇が二度と起きないようにと願って保存運動が進められたこと」「核兵器をなくし世界平和を目指す誓いのシンボルとして世界文化遺産に登録されたこと」などを資料から学習することができた。

情報教育の充実

この小単元の内容である第二次世界大戦に関する出版物は多く、図書館でも資料を収集することが可能である。過去の映像フィルム等も多く残っているので、映像資料やデジタルコンテンツを活用しやすい学習である。実際の映像を見ることは、児童にとって当時の様子を具体的に理解することができる。さらに大型テレビや電子黒板を活用し資料を拡大して提示したり、焦点化させたりすることで児童の集中力や関心・意欲の高まりが期待できる。

しかし、ただ映像を見せるだけではなく、授業のねらいに沿って資料やコンテンツを選択・吟味したり、再構成したりする必要がある。

○「ピースキャラバン」の申し込み

埼玉県立平和資料館ホームページから
http : //homepage3. nifty.com/saitamapeacemuseum/

太平洋戦争の資料や写真のパネル、熊谷空襲のビデオテープ等の貸し出しも行っている。

○「NHK デジタル教材」

NHKforSchool から
http : //www.nhk.or.jp/school/
→見える歴史
→クリップタイムトンネル

歴史学習のデジタルコンテンツが充実している。

事例６　問題解決的な学習の一層の充実を図ること

問題解決的な学習過程については、「埼玉県小学校教育課程指導資料」で「つかむ」「調べる」「生かす」と示している。すなわち、児童が追究する問題をつかみ、それに基づいて調べ、収集した事実やそこから考えたことを基に学習問題の結論を導き出すものである。さらに、よりよい社会をつくるため、社会的な課題の解決策を話し合い、社会的事象の価値を判断する活動が考えられる。本事例は、「つかむ」過程に焦点を当てて実践したものである。児童の中に問いが生まれなければ、その後、自ら意欲をもって主体的に学習することは難しい。また、教師からの一方的な学習問題の提示では、児童の学習意欲は減退する。児童の興味・関心のみに頼ってしまうと、学習内容から逸脱してしまう。そこで、本事例では、資料の読み取りから驚きや疑問を引き出し、それを基に問題意識を醸成し、児童が学習問題をつかめるようにした。

１　単元名　第６学年⑶イ　世界の中の日本　「国際社会の日本の役割」

２　小単元について

「つかむ」過程では、東日本大震災での外国からの支援の様子から問題意識をもち、学習問題をつかめるようにする。「調べる」過程においては、国同士の支援として政府開発援助（ODA）特に青年海外協力隊、民間の支援としてNGO、国際連合を通した支援として特にユニセフとユネスコの取組を調べていく。その際、国際交流協会の方をゲストティーチャーとして招き、国際交流の具体的な様子、努力や願いについての話を聞き取る。「生かす」過程では、話し合いを通して学級の結論を導き出していく。また、単元を通して学習したことを基に、今後、自分はどのように国際協力をしていくのかについて話し合う。

テーマにせまる指導のポイント

①　問題意識の醸成
- 児童の追究意欲を高め、学習内容に合った資料を活用する。
- 資料の読み取りを基にして、児童の驚きや疑問を引き出す。

②　学習問題をつかむ
- 児童の驚きや疑問を共有し、それを基に、学級として追究・解決していく学習問題を話し合って決めていく。
- 単元を通して追究する問題となるようにする。
- 学習問題に含まれる言葉を整理する。
  （例）・「どのように」「なぜ」…事実を集め、社会的事象のもつ意味や相互の関連を考える活動につながる。
  ・「どうするのか」…社会的な課題の解決策を話し合い社会的事象がもつ価値を判断する活動につながる。

３　小単元の目標と評価規準

我が国の国際交流や国際協力の様子及び国際連合などについて、関係者との交流、写真や文献資料などから調べ、我が国は世界の平和や発展のために貢献していること、国際連合の重要な一員として大きな役割を果たしていること、我が国や日本人が今後、果たさなければならない責任と義務が重いものであることが分かり、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考える。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
我が国の国際交流や国際協力の様子及び国際連合について関心をもち、世界の平和と日本の役割について主体的に調べ、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えようとする。	我が国の国際交流や国際協力の様子から学習問題をつかんで追究し、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	我が国の国際交流や国際協力の様子及び国際連合などについて、関係者との交流、写真や文献資料などを活用して主体的に調べ、自分なりの方法でまとめている。	我が国は世界の平和や発展のために貢献していることや、国際連合の重要な一員として平和な国際社会の実現に大きな役割を果たしていることなどについて理解している。

４　指導計画と評価計画（８時間扱い）

	学　習　活　動　・　学　習　内　容	学習活動に即した評価規準　〈　〉評価方法
つかむ	①　外国から日本への援助の様子から国際協力について話し合い、学習問題を考え、学習カードに書く。**（本時１／８時）** ・東日本大震災時の外国の援助内容 ・過去の日本の援助に対して、外国が援助をしていること **テーマにせまる指導のポイント①②** 学習問題 日本は、世界の国々と、どのようなかかわり方をしているのだろう。	**思**　東日本大震災での各国の支援内容についての資料を基に話し合い、学習問題をつかみ、学習カードに書いている。 〈発言・学習カード〉
	②　学習問題に対する予想を考え、学習計画を立て、学習カードに表現する。 ・予想を考え学習計画を立てること	**思**　学習問題に対する予想を考え、学習計画を立て、学習ードに表現している。 〈発言・学習カード〉

調べる	③④　日本の国際協力について、各種資料から必要な情報を調べる。 調べる項目の例 ・青年海外協力隊の働き　・ＮＧＯの働き　・ＯＤＡの働き ・国連の働き　・国連の機関（ユネスコ・ユニセフ等） ・世界の平和や環境を守るための人々の働き	**技**　日本の国際協力について、各種資料から必要な情報を調べている。〈行動・ノート〉 **知**　国際社会の一員として、平和で持続可能な国際社会の実現に果たしている役割について理解している。〈発言・学習カード〉
	⑤　世界の国々と日本との交流の様子について、各種資料や関係者の話から必要な情報を活用して調べる。 ・信頼関係づくりとして、外国との交流に目を向けること ・スポーツを通して国際交流をしている様子　・国旗と国家 ・お互いを尊重し、関係を築いていること ・国際交流協会の方のお話（活動内容、苦労や努力、思いや願いなど）	**技**　世界の国々と日本との交流の様子について、各種資料や関係者の話から必要な情報を活用して調べている。〈行動・ノート〉 **知**　文化的な交流を通して、外国との信頼関係がつくられていることを理解している。〈発言・学習カード〉
	⑥　調べたことを基に、関係図にまとめる。 ・関係図にまとめること　・自分なりの結論をもつこと	**技**　調べたことを関係図にまとめている。〈行動・関係図〉
生かす	⑦　調べたことを基に話し合い、学習問題の結論を導き出す。また、これからの国際協力のあり方について話し合う。 ・学習問題について話し合うこと ・学習問題の結論を導き出し、学習カードに表現すること	**思**　調べたことを基に話し合い、学習問題の結論を導き出し、学習カードに表現している。〈発言・学習カード〉
	学習問題の結論 ・日本の人たちは、スポーツや文化を通して国際交流を行っているとともに、教育や医学、農業などの分野で世界の国々と協力をしています。 ・日本は国際連合の重要な一員として、平和で持続可能な国際社会の実現のために優れた技術などを生かしながら問題の解決に当たるなど大きな役割を果たしています。 ・日本は、世界の国々との関係を大切にしながら、国際交流や国際協力をしています。	
	⑧　国際交流協会の方を交え、今後、自分たちは平和で持続可能な国際社会の実現のためにどうしたらよいかを話し合う。 ・グループごとに、外国の方を交え、意見を交流すること	**関**　外国の方との交流を通して、平和で持続可能な国際社会の実現について考えようとしている。〈態度・行動・学習カード〉

5　本時の学習指導（１／８時）

⑴　目　標

日本と外国の国際協力の様子を示す資料を基に話し合い、学習問題を考えて学習カードに表現する。

（社会的な思考・判断・表現）

⑵　展　開　（「指導と評価の工夫」の評、→は、目標にかかわった評価と支援を表す。）

学習活動	学習内容	指導と評価の工夫	資料・準備	時間
1　東日本大震災で各国から多数の支援があった事実から本時の見通しをもつ。	○東日本大震災で各国から多数の支援があった事実 ○本時の見通しをもつこと	○支援を表明した国を、具体的な数字（１６３の国：９月１５日現在、〈外務省〉）や、世界地図で示すことで、児童から様々な疑問を引き出す。	・世界地図（日本への支援を行った国）	7’
東日本大震災における世界の国々の支援の様子を調べ、学習問題を話し合おう。				
2　東日本大震災での各国の支援内容について調べ、世界の国国との関わり方について話し合う。	○各国の支援の内容（緊急援助、医療支援、物資、義援金、メッセージなど） ○アフリカの国々の現状と支援の内容（義援金お見舞いの手紙） ○トルコの支援内容及び日本とのつながり ○日本の支援内容 ○各国との関わり方 ○追究したいことを学習	○事前にアンケート「国際協力といえば」を行っておき、日本は支援をする国という児童の意識を取り上げることで、日本が常に支援する立場ではないことや国際協力の相互性に気付くようにする。 ○アフリカの国々やトルコの支援の事例から、その国への日本の働きかけが、今回の支援につながったことを押さえ、日本と世界の国々との関わり方について話し合うようにする。	・各国の支援内容を示した資料 ・写真（アフリカの現状）	15’

3　追究したいことを学習カードに書き、学習問題について話し合う。	カードに書くこと ○学習問題について話し合うこと （追究すべき問題点を明らかにすること）	評　東日本大震災での各国の支援内容についての資料を基に話し合い、学習問題をつかみ、学習カードに書いている。　【思】〈学習カード〉 →本時の学習の過程を踏まえた学習問題が書けている児童には、追究すべき問題を別の視点から、または具体的に考えるよう助言する。 →書けていない児童には個別に授業を振り返りながら対話し、追究すべき問題点を明らかにする。 ○外国に信頼される国際協力について考えるには日本の国際協力の様子を調べる必要があることを示唆し、児童の追究の方向性を定める。		15’
学習問題 日本は、世界の国々と、どのようなかかわり方をしているのだろう。				
4　今日の学習を振り返る。	○今後の学習に意欲と見通しをもつこと	○机間指導や感想発表を行う。	・学習カード	8’

6　実践の工夫と考察

(1)　資料について

○支援を表明した国について（黒板掲示資料、児童配布資料）

○東日本大震災での外国からの支援の様子（外務省ホームページより）

〈ケニア〉

首相がケニア人マラソン選手等を帯同し日本大使館へ弔意の表明に訪問。「日本で育ててもらったことを感謝しており，このような時にこそアフリカから日本へ応援のメッセージを送りたい」。

〈セネガル〉

日本人が運営に関わるNGOが支援している小学校の児童から約40通のお見舞いの書簡が日本大使館に届いた。

〈トルコ〉

トルコの支援チームは貨物専用機で機材（作業用車両３台含）を日本へ運び込み，３月２０日に現地入りし，４月８日に撤収するまで宮城県にて，主に行方不明者の捜索活動に従事し，約３週間もの長期にわたり活動を行った。ちなみにトルコは伝統的な親日国として知られており，１９９９年のトルコ北西部地震で最も迅速的かつ包括的に支援を行った国の1つが日本であり，トルコはその際の恩返しという気持ちで活動した。

「小・中学校の連携」について

本単元は、主に、中学校公民的分野(4)「私たちと国際社会の諸課題」内容「ア　世界平和と人類の福祉の増大」と関連している。

○内容アは「国家間相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力、国際連合をはじめとする国際機構の役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせることを主なねらいとしている。」とあり、小学校第６学年内容(3)「…世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。」と共通している。内容的には、より多面的・多角的になっている。

○小学校では事例を選択して取り上げたり、身近な事例を取り上げたりして、国際社会における我が国の役割を具体的に考えられるようにしている。小学校で身に付けた見方や考え方を生かし、中学校でより多面的・多角的に考えられるようにしていく。

○小・中学校で内容が関連している単元については、授業を参観し合うなどの交流が、ねらいの明確化に効果的である。

(2)　児童の学習カードの記述から

児童は、「こんなにたくさんの国が助けてくれているとは思わなかった。」と支援を表明した国の数に驚き、「どんな援をしてくれたのだろう。」「どうして小さな国や貧困で大変な国までが支援してくれるのか。」と疑問を感じている様が見られた。児童の感じた驚きや疑問を基に、何を学習問題にするかを話し合った。その際、実際にどのような国際協を日本は行っているのかを調べてから、これからの国際協力のあり方を話し合えばよいという提案が児童から出されたそこで、児童は学習問題「日本は世界の国々と、どのようなかかわり方をしているのだろう。」をつかむことができた児童の問題意識を引き出し、共有することで問題意識を醸成し、一人一人が学習問題をつかむことができたと考える。